



第1会場 ● 2F 第4研修室

■司 会／田中 時子 山口県地域支援ネット「かぜ」 事務局長
眞鍋 幸一 愛媛県県民環境部管理局 県民活動推進課 課長

分科会の進め方 10:45~10:50

1 県民が「学び・つながり・動き出す」 10:50~11:20
～くまもと県民カレッジの仕組み～

太田黒保宏(熊本県) 熊本県生涯学習推進センター 社会教育主事
学習システムは「主催講座」、「連携講座」、「リレー講座」の3つを組み合わせて構想している。キャンパスは県全域と想定し、県施設パレア(熊本市)に加えて、サテライト教室を通して県下約半数の市町村で出前講座を実施してきた。
プログラムは大学と連携した企画部会で検討した後、関係機関で構成する運営委員会で審議して決定する。また、スムーズな運営を支える県民カレッジ卒業生等のボランティアも見逃せない。カレッジは単位制を採用して、学習への参加を奨励して来たが、平成24年には主催講座の受講者が1万人を突破する見通しである。

2 子育て・親育ち「タムタムスクール」の協働実践 11:25~11:55
～市民と行政による乳幼児期の家庭教育支援～

ト蔵 久子(鳥取県米子市) タムタムスクール実行委員会 会長
孤立しがちな子育て世代に「子育て」と「親育ち」の二つの機会と場を同時に提供しようとする米子市教育委員会の発想により広い視点を取り入れるため、子育て支援に係る活動をしている市民も交えて実行委員会を組織している。本スクールの講座は食育、しつけ、メディア環境、あそび、自然体験など年間10回を基本とし、広く人々に浸透させるべく、コンサートのような特別講座を組み合わせている。参加者の声を聞けば、成果は多岐に渡って上々であるが、子育て支援事業のジレンマは、男性を始めとして参加してもらいたい人々に届いているかということであり、民生児童委員等と連携したきめ細かい情報提供と支援が今後の課題である。

3 地域を変える・暮らしを変える 12:00~12:30
～非地元系NPOによる中山間地コミュニティ再生に向けた実践～

齋藤かおり(福岡県八女市) 特定非営利活動法人グラウンドワーク福岡 事務局次長
「非地元系」とは、当NPOは福岡市に所在し、活動場所に八女市を選択しているという意味である。それゆえ、活動を通して地元との信頼関係を築くことが最も重要であるが、この5年間で、古民家再生プロジェクト、遊休農地を活用した芋焼酎プロジェクト、英国の成功事例に倣った「タイムバンキング」、子どもを巻き込んだ景観まちづくりワークショップなどをはじめとし、30本以上の企画を集中的に実施してきた。
試行錯誤の連続であったが、古民家の再生、芋焼酎の製品化など、目に見える成果が生まれ、さらにはNPOが起こしたアクションを契機に地元主体のプロジェクトが動き出したことが最大の成果である。